

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第3回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 地域活動支援事業について

1) 審査・採択すべき事業の決定等

2) 追加募集について

3 開催日時

令和3年6月9日（水）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫、高橋清司（副会長）

田中利夫、塚田春枝、樋口里美、日向こずえ、松山公昭（欠席2人）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

・挨拶

【山崎主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：上野委員

次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業について」の「1) 審査・採択すべき事業の決定等」に入る。委員が採点した結果を資料1「採点結果一覧表」と資料2「提案事業に関する意見一覧」にまとめている。本日は採点結果を基に、高士区の採択すべき事業や補助額を決定する。

最初に事務局より、採点結果について説明を求める。

【山崎主事】

- ・「士-1」の提案書（一部差替え）について説明
- ・資料1、資料2に基づき説明
- ・この後の審議について説明

【青木会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

では高士区の採択事業と補助額を協議・決定していく。

はじめに不採択とする事業について協議を行う。審査方法の基準では、「自動的に不採択となる事業」や「評価の低い事業」はなかった。「士-4 男の料理教室開催事業」については、一部の委員より「基本審査」で不適合と評価されている。まずは「士-4」について、採択すべきか否かを審議する。なお、不採択とする場合には、提案者に対して不採択とした明確な理由が必要となるため、根拠も含めて発言願う。「士-4」について、意見を求める。

【塚田委員】

基本審査で「不適合」と評価したのは自分である。

「士-4」については、居場所づくり・仲間づくり、また新たな試みとして高士地区の食材を使った料理の広報等、大変よいことだと思う。だが、「士-4」の団体はこれまでも何年間か地域活動支援事業の補助金を利用しながら活動してきたということを知った。今度はもう少し、社会性というか、例えば、最近新型コロナウイルスの影響もありなかなか難しいのだが、食に関するイベント等が高士地区でも開催されているため、そういったイベント等に協力するような、発展性が出てくるような活動をし

ていただけると、補助金を使う意味が出てくると思い、このように評価した。

【青木会長】

他に意見はあるか。

【松山委員】

前年度の提案と比較をしながら見ている。

前年度の『男の料理教室』開催事業については、3人の委員が基本審査で「不適合」と評価していた。また「地区だより『たかし』発行事業」については1人、そして今年度は提案されていないのだが、交通安全協会から提案事業にも2人の委員が「不適合」と評価していた。

前年度については、このような進め方での審議はしなかったと思うのだが、昨年度の審査との整合性をどのように考えていけばよいのか。

【青木会長】

前期の協議会から委員を継続している委員は、自分と日向副会長だけである。

日向副会長、何か補足等あるか。

【日向副会長】

今ほどの松山委員の発言についてだが、昨年度も確か、委員の意見を確認し、採択を決定したと思う。

【玄蕃委員】

新型コロナウイルスの影響もあり、今年度提案された事業数は、昨年度の約半分となっている。

高土地区のまず目指したい目標というものは「子育て世代を応援すること」と「人を呼べる新たなイベント」が中心である。その他に、「コミュニティを広げる」、「人材を育てる」といったことについても、これまでの議題にあがっていたと思う。

「土-4」については、最初は自分たちだけの活動から始まったが、どの事業も最初からうまくはいかないと思う。色々な人から指導を受けていく中で、徐々に目指すべきものが団体の中でも変わってくるかと思う。もう少しすると「地域のために何かしていきたい」と人材が育ち、またそのような活躍をしてくれるのであれば、自分はよいと思っている。附帯意見や特記事項等を付けてもよいかもしれない。目上の方に失礼な言い方だが、自分は育ててほしいと思っている。

【青木会長】

確か昨年度は、「不適合」と評価した3人の委員から意見があったと思う。今年度は提案書の中でも昨年度の意見が活かされているという感じで見えてはどうか。「士-4」については、この後、附帯意見について協議する場があるため、その中で決めていければよいと思う。

他に意見はあるか。

(発言なし)

【青木会長】

採決を取る。

「士-4」を採択すべきと考える委員は挙手願う。

(全員挙手)

採決の結果、「士-4」は全員一致で「採択すべき事業」と決する。

次に残る6事業について、採択すべき事業としてよいか、採決を取る。

残る6事業を採択すべき事業としてよいか。

(全員挙手)

先ほどの「士-4」を含めて、今年度提案のあった7件すべての採択が決定した。

続いて、採択する事業の補助額の決定を行う。現在、高土区の配分額に対し、補助希望額が下回っているため、全ての事業を提案どおり採択することができる。だが、高土区地域協議会として地域活動支援事業で適当ではない、例えば支出費目の中で自己負担とすべき経費について、意見のある委員は理由も含めて発言願う。

【玄蕃委員】

これはどの事業にも同じく言えることなのだが、お金があるから・余っているから、使ってしまう・貰ってしまう、との考えは駄目だと思う。自分が関係している「お買い物ツアー」も指摘を受ける事業であり、補助金を受け取る中で「どうしていいのか」といった話をしている。「士-7」の「高土ルミネ」については、若い人たちが仕事をしながらこの祭りをやるということは、非常に大変なことだと思う。自分も婦人会でふるまい等に参加するのだが、裏方の人たちの大変なところもある。そういった人を「育ててほしい」「ぜひ応援したい」との想いは変わらない。

だが、実際はあまり応援できていないのではないかと思う。若い人たちは本当に頑張っているのだが、例えば、地域の大人たち、つまり自分たち世代が、本当に協力しているのかと思うところもある。

年間を通して、高士地区には地域全体の祭りがあると言っていたが、コロナ禍になった途端、全くなくなってしまい、地域の繋がりもなくなった。例えば振興協議会等、大きな団体もあるため、何か皆で温かく一緒に見守るという姿勢が必要かと思う。

だが、金銭の話は別である。もし可能であれば、広告料や協賛金を取る等、団体も今後は考えていかなければならない部分だと思う。

「地域の皆で」という視点があれば、若い人たちのやる気にもなると思う。

【青木会長】

自分は過去に、町内会長協議会の会長を務めていた。「高士ルミネ」は、大きな事業であっても実際に動く人は非常に限られており、せいぜい10人以下である。町内会長やそれ以外の人たちにも計画の段階から加わってもらえるよう、何度も働きかけを行ったのだがうまくはいかなかった。実態として、若い人たちは働きながら時間を作っているため、暇や余裕がないように思う。そういったことがよく分かった。実際に動いている若い人たちに、助言や協力等、いろいろとしてきたのだが、なかなか形にはならなかった。どうしたら思うような形となるのか、非常に大きな課題だと思う。

他に意見はあるか。

【松山委員】

「士-7」についてである。

前年度と比べて花火代が「プラス50万円」となっていることに関しては、前年度の追加募集にて「高士ママさん会」が提案した分と同じくらいの金額が上乘せされているためである。資料2では「士-7」に対する特記事項も記載されている。特記事項を1つずつ確認していったらどうか。

次に、世の中の流れがすべて、新型コロナウイルスの影響により中止や延期をすることが多くなっている。今後、状況がよくなっていくとは全く考えられない。だが、自分としては提案された事業については、提案団体が一生懸命に行ってくれることで、状況等がいろいろと変わってくると思っている。そのため、資料2に記載されている特記事項について、記載者より説明を求め、内容が確認できればよいと思っている。説明を受けることで、話題が共通になると思う。

【青木会長】

「士-5」についての特記事項として、「簡易的スロープでなく常設したほうが多様性があるのではないか」とある。これについて意見等あるか。

【上野委員】

自分がこの意見を記載したわけではないが、この意見のように常設できることが、1番よいことだとは思っている。だが、小学校の昇降口、並びにグラウンド側の階段にスロープを常設的に置くとなると、工事費が非常に高額になってしまう。「公益性」等を考えても常設することがよいのだが、工事費がかかることのほか、小学校だけではなく、各地区の公民館等のいろいろな場所で使用できるようにしたいと考え、小学校教頭と話をした結果、常設ではなく簡易的な取り外しができるスロープの購入を希望し、今回の提案となった。

「常設したほうがよい」との意見をした委員が、どの程度の内容・金額で考えているのか確認できればと思う。

【青木会長】

「士-5」に対して特記事項を出した委員の発言を求める。

【山崎主事】

本日は欠席の委員もいる。

【青木会長】

では、今ほど上野委員より補足説明のあった内容で理解が深まったと思う。

次に「士-2」についての特記事項として、「費用対効果を勘案し、年3回の印刷業者依頼が必要か再検討する必要があると思う」とある。これについて意見等あるか。

【玄蕃委員】

地区だより「たかし」は、非常に地域振興に重要だと思っている。特に4月の発行分には、地域の重要な人たちが交代となる時期であるため、全員の挨拶が掲載されている。そういった意味でとても大事だと思う。そもそもは上越市の合併により、当時は「地区の広報をどう作っていくのか」といった論議があった。その時は各区の総合事務所が広報のようなものを一律で作っていた。だが、それでは自分たちの自由な発想による地域の顔の見える新聞ができないため、予算がなくても自分たちで作ることができるということで、始まったのである。高士の地区だよりも、それほど予算をかけなくとも、自分は毎回、とても読みたくなる内容である。

かかる費用がそれほど変わらないのであれば特に問題はないと思ったのだが、これまでの印刷費と、業者依頼の場合の印刷費では、随分と金額に差がある。そのため年1回から2回であれば理解ができるのだが、年3回も必要なのかと思った。

【上野委員】

自分は地区だよりの編集委員を務めている。

昨年度よりカラーのたよりの作成を考え、1月発行分よりカラーとした。

次に「印刷業者依頼がなぜ3回なのか」というと、カラーにすることで非常に写真が映えるわけである。高士ルミネ等の写真を掲載しても白黒ではあまり効果がない。従ってカラー印刷にすることを考えた。また他にも高士の祭り等があれば、それもカラーにしたいとの考えから「3回」とした。これについては、提案書にも詳しく記載されている。

カラーにすることで非常に写真が映え、皆の希望どおりの文面や写真となる。編集委員の中では、年3回ではなく、毎回との意見もある。だが、それでは負担額が非常に大きくなってしまう。

【松山委員】

自分も前回、印刷業者に依頼してカラー版を年3回発行することについて、どうなのかと発言した。今ほどの上野委員の説明を聞いていても、白黒の写真よりカラーの写真のほうが当然よいと思う。

編集することは大変だと思うのだが、編集委員では記事の募集等はしているのか。

【上野委員】

3か月に1回、編集委員会を開催し、それぞれの団体及び町内会長等に記事を依頼している。例えば、4月・5月・6月の分を2月に決定し、それぞれに記事を依頼している。最近は、だんだんと記事の内容がマンネリ化してきている。地域にはいろいろな趣味を持っている住民もいるため、そういった人の記事を掲載しようと考え、編集している。

また、印刷を業者に依頼するためには、3か月前より編集や構成をしなければならず、非常に苦労している。そのため、年3回が限度だと思っている。

編集・構成は業者でも行うのだが、編集委員の希望を十分に取り入れたいということで、業者はそれほど手を加えない。編集委員が作成した原稿をほぼそのまま使用しているため、編集するほうは非常に苦労している。そういったことを理解願う。

【青木会長】

「土-2」に対する特記事項として、「再検討する必要がある」とあるのだが、必要に応じて年に3回までの範囲でカラー化をしていくとしてはどうか。

【松山委員】

カラーにて発行する内容についてだが、見る者からすると顔写真がカラーであることが1番ありがたい。年度当初に発行される地区だよりは、新しく高士地区にて役員となった人たちが掲載されている。そういった記事がカラーであれば、見る人からすると、1番インパクトがあると思う。個人情報の問題もあるため非常に難しい話ではあるのだが、了承を得て顔写真等を掲載できるのであれば、カラーで掲載いただきたい。誰が見るということではなく、発行するということが非常に大切なことだと思う。

【上野委員】

ここで自分が回答することはできないのだが、顔写真等の掲載も検討したいと思う。

【青木会長】

現在、補助額の決定について協議している。減額についての意見は今のところ出てはいない。

「士-7」の花火代については、去年の追加募集にて「高士ママさん会」から提案のあった金額と同じ程度の金額が上乘せされた90万円で申請が出ている。そういったことへの意見も特記事項で出されている。これについては前回のヒアリングにて、提案団体より「検討する」との話もあった。

地域協議会として、花火代を「高すぎる」と判断するのか、それとも補助希望額のとおり採択とするのか審議したい。個人的な意見になってしまうのだが、惰性でそのまま採択してしまうこともどうかという気もする。

何か意見等あるか。

(発言なし)

個人的な意見になるのだが、去年の高士ルミネについては、「高士ママさん会」が追加募集で提案した分、花火の予算が増え、あれほど立派な花火が打ち上げられた。去年は「子育て世代」である「高士ママさん会」からの提案により、花火の予算が追加されたのだが、今年度の提案はそうではないため、そこが問題なのかとも思う。

【日向副会長】

昨年度の追加募集では、自分が会長を務める「高士ママさん会」が提案し、採択されたため、無事、子どもたちを喜ばせることができた。地域の住民にも大変に感謝されたため、よい結果だったと思った。

しかし実は、大変な思いもした。高士地区内で花火を打ち上げることに對する地域

住民の反対が多く、正直に言うと精神的にもやられてしまった。花火の打ち上げについては、高士ルミネの実行委員会のスタッフも、地権者の許可を貰うために毎回大変な思いをしている。

高士ルミネは地域協議会で立ち上がった事業であるため、ぜひ応援したいということが本当の気持ちである。確かに今回は補助希望額も多い。だが、「高士ママさん会」の気持ちも汲んでもらい、その分も花火を打ち上げてもらいたいと思っている。

【松山委員】

反対意見は必ずある話である。反対する理由が何だったのかを示してほしい。

【日向副会長】

まず、花火を打ち上げる場所がないということである。打ち上げ前の許可の段階より住民の反対があった。

花火を打ち上げる側の人間となって分かったことなのだが、高士ルミネの実行委員会のスタッフは、毎年、頭を下げてまわっている。また、花火を打ち上げた後は花火玉のカスが落ちるのだが、その数が果てしない。そのカスを翌朝、スタッフで拾っているのである。自分は高士ルミネの実行委員会のスタッフに、今回は「住民に声掛けをし、ごみ拾いを協力してもらってはどうか」と話すことができた。

今回、高士地区で花火を打ち上げることは大変なことだと思った。これ程大変な思いをスタッフは何年も続けている。今年度の高士ルミネでは、違う場所から花火を打ち上げることになろうかと思う。

花火を上げてよい場所というか、やはり住宅との距離については結構厳しい。高士地区内から花火を打ち上げて、地区内の住民が問題なく見ることができる場所の提供者を求めている。花火師の話では、打上げ後の花火のカスは、段ボールのような素材であるため何か月かすると溶けるようである。ただ、中にプラスチックのようなものが含まれているため、どうしても拾わなければならない。昨年度は打ち上げた翌日に朝早くから回収した。大きな花火を打ち上げれば打ち上げる程、打ち上げ後のカスが広く落ちるため、正直、拾いきることは容易ではない。そのため、小さな花火を多く上げるしかない。

【塚田委員】

そこまで大変な思いをしていたとは、自分も考えが及ばなかった。

以前、高田城址公園のゴミ拾いに行ったことあるのだが、花火の数日後であったた

め日向副会長が話していることは理解できる。紙製のゴミがたくさん地面に散らばっており、その時は「なぜこのように焦げたものがたくさん落ちているのか」と不思議に思った。それが数日前の花火のカスだと知り、このようなものが飛ぶのだと実感した。

自分の集落の若い人も一生懸命に活動しているため、毎回、「翌日の片づけ等、必要であれば手伝う」と声掛けをしているのだが、なかなか声もかからない。そういったことに対して、地域住民に遠慮なく、個人的にでもよいので協力等を求めてもよいと思う。

花火の打ち上げに対して、高土地区内でそれほどの反対があるとは知らなかった。高土ルミネでは竹のオブジェを作成しているが、お正月が終わるとすぐに寺に竹を切りに行っている。土日に準備している姿をよく見かける。自分としては、非常に応援したいと思っている。それほどの苦労があったとも知らず、申し訳ない気持ちである。

【青木会長】

自分も初めてこの話を聞いたときは驚いた。

【松山委員】

提案書の収支計画の中に「ゴミ回収費：22,000円」が計上されているのだが、今ほど日向副会長が説明したような内容は一切記載されていないため、記載したほうがよいと思う。イベント後の後片付けに業者を頼んでもよいと思う。

反対する人がいることは、社会的に当たり前の話だと思う。1人の人でも反対は反対である。実行委員会の人たちが町内会等とどのような連絡を取り、どのような話をしているのかは分からない。だが反対があってもイベント自体は数年間続いている。反対があるからやめるとは言わず、反対している人も巻き込めるような方向に持っていけるように、地域協議会で解決してあげることができればよいと思う。

【青木会長】

議題に戻る。

改めて、減額するか否かについて意見を求める。

(発言なし)

採決を取ってよいか。

【松山委員】

何の採決を取るのか。

【青木会長】

「士-7」についてである。

【松山委員】

実行委員は皆、ボランティアで活動しているため、何かしら経費を賄ってもよいと思う。

【玄蕃委員】

今は補助金額と採択、どちらの話をしているのか。

提案のあった7事業すべての採択は決まっていると思うのだが、特記事項についての話はどこにいったのか。

【青木会長】

採択事業について、減額する必要あるか否かを協議していたのだが、話がそれてしまった。

【玄蕃委員】

自分としては、若い人たちが行っている事業であるため、やりたいように任せたいと思っている。だが、「困っている・助けてほしい」といったことを振興協議会等にきちんと話してほしい。例えば、終わった後の花火のごみ拾いに困っているということであれば、花火大会の案内の時点で、「翌日、手伝ってくれる人は何時からお願いします」といった声掛けをすることまでを含めて行うことができれば、「住民参加型」となると思う。花火を客として見に行くだけではなく、若い人たちが頑張っているため、翌日手伝いに行くことができれば、初めて皆のイベントになるように思う。

なるべくは実行委員で行ってほしいのだが、すべて自分たちだけで抱えるのではなく、例えば、振興協議会等から何かしら手伝ってほしいこともあると思う。そのようにできれば、「皆でしょう」といった雰囲気になっていくと思う。主体はあくまでも若い人たちなのだが、そこに自分たちが少しずつ関わることに、まちづくりの重要な部分があると思う。それができるのであれば、申請額の満額を補助しても、それなりの意味があると思う。

【塚田委員】

同じようなことで申し訳ないのだが、自分は少しだけ手伝いをしており、ろうそくに火を付ける役である。そんな少しのことでも頼まれるだけで嬉しい。

【青木会長】

多くの意見が出され、いろいろなことを知ることができたため、よい機会だったと思う。

今後は、このようにスタッフが苦勞しているということを、振興協議会がまずは知らなければならない。そして、どうしたらよいのかをきちんと整理するよう、地域協議会として発言していかなければならないと思う。振興協議会としても、手伝い的な感覚となっていることが実態である。そのため、そこまでの考えには及ばず、若い人たちの苦勞を実際に分かっているのかも疑わしいと思う。

【松山委員】

「高土ルミネ」については、大島区・浦川原区・名立区等で行われている「灯の回廊」の一環であり、高土地区も後から入ったような格好になっていると思う。確か昨年度は実施しなかった地区もあったようである。金額だけを見ると「若者が頑張っている」とは思うのだが、それは皆にまで通じない。実行委員会と地区の町内会、そして反対意見を出している人たちとの信頼関係を持っていかなければ、同じことになってしまうと思う。継続することを止めなければよいわけである。

苦勞している・大変だということを、地域協議会で確認できたことは非常によかったと思う。それが共通の話題・共有ということになるかと思う。

自分的には、大変なことは、皆で分ければよいと思う。

【青木会長】

では、「土-7」も含めて、減額とすべき事業はなしとしてよいか。

(よしの声)

ここまでの「採択すべき事業」と「補助額」について、確認のため事務局より読み上げを願う。

【山崎主事】

・審議結果について読み上げ

【青木会長】

最後に附帯意見について審議する。「採択すべき事業」とした事業については、「地域協議会からの附帯意見（採択の条件）」を付けることができる。資料2記載の意見やこれまでの審議内容を踏まえ、附帯意見が必要だと思う事業について、意見を求める。

(発言なし)

資料2の「意見一覧」の特記事項に記載されている内容を整理し、附帯意見として

付記することとしてはどうか。

【松山委員】

附帯意見ということよりも、高士区の配分額に対して「士-7」の占める割合が多い。また色々な話も出ている。

実行委員会は地元町内会や振興協議会と当然、連絡は取っているとは思っているのだが、改めて、よく説明をし、「一緒に頑張ろう」との方向に持っていけるようにしてほしいと思う。それができれば、よい方向に進むようにも思う。

附帯意見ということではないのだが、自分の想いである。

【青木会長】

よい意見だと思う。

今ほどの松山委員の発言のようなかたちで話を持っていったらどうか。

【日向副会長】

今ほどの意見を附帯意見として付けた場合、その条件をクリアしなければ補助金は交付しないということになってしまう。附帯意見とすべきか、非常に重要なことだと思う。

【上野委員】

今、出されている意見は、附帯意見ではないと思う。

「このようにすると、よりよくなる」といった、委員からの意見だと思う。そのため、今ほどの内容を附帯意見とすることは、地域協議会としては少し違うように思う。

そしてもう1点。各事業は行った後に反省会を行うと思う。反省会で出された意見に基づいて、次年度の話を進めていく。すべての団体がそのようなことを行っているのかは分からないのだが、そういったことも含めて事業を行うことができれば、「士-7」も発展していくように思う。

【藤井係長】

事務局より補足である。

「士-7」の話の中で、附帯意見にはそぐわないのではないかと、といった話が出ている。

他区の地域活動支援事業の審査の中では、附帯意見ではなく地域協議会からの意見のような文言を付加することがある。それは押し付けるものではなく、「地域協議会としてこのようなことを考えた」という提案レベルの内容である。そういった整理の中

で伝えることもできるかと思う。提案団体には主体的に頑張ってもらわなければいけないかと思う。また地域協議会が「上の立場」ということでもないため、応援する姿勢というか、頑張ってもらうための投げかけといった姿勢がよいかと思っている。

【青木会長】

地域協議会で「このように決定した」ということで、提案団体に伝えるということである。

【松山委員】

提案団体に採択結果を伝える際に、「このような話が出た」程度に伝えてはどうか。

【青木会長】

それは事務局として伝えるのか。

【藤井係長】

審査終了後に、提案団体に採択の結果通知を発送する。採択されたか否か、減額がある場合には減額内容を記載する。また担当課からの所見がある場合には、その内容も記載する。今ほどの内容についても、結果通知の中に「このような議論があったため、検討してほしい」といった内容を入れることができる。

【青木会長】

今ほどの事務局の補足のようなかたちとしてよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業について」の「1) 審査・採択すべき事業の決定等」を終了する。

次に次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業について」の「2) 追加募集について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

・資料3に基づき説明

【青木会長】

事務局の説明のとおり、45万9千円の残額があるため、追加募集を実施することが可能である。追加募集の実施について意見を求める。

【松山委員】

昨年度は「高土地区作品展」より38万5千円の事業提案がされていた。例えば、作品展をこれから計画することは可能なのか。

【青木会長】

昨年度は地区公民館で作品展を実施していた。上野委員より何か補足等あるか。

【上野委員】

昨年度は高士地区振興協議会にて事業を実施し、地域活動支援事業に提案をしてパネルを10枚購入することができた。昨年度も説明したのだが、パネルは防災時も間仕切りとして使用することが出来るため、可能であれば追加購入したいとは思っている。今後、話が出ると思うのだが、旧高士スポーツ広場の建物を除却するとの話がある。その跡地を整備しているのが高士地区振興協議会である。旧高士スポーツ広場の建物をすべてなくした場合、跡地を管理する費用がこれまでの3倍程度かかることになる。そのため、跡地に対する振興協議会の考えを盛り込んだ事業、例えば、自動除草機の購入をして、楽に除草整備ができるようにしたいと自分は考えているため、振興協議会に話したいと思っている。

【青木会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

追加募集について採決を取る。

追加募集を実施することに賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

追加募集を実施することとする。

次に募集スケジュールを決定していく。資料3にはスケジュール案が記載されている。スケジュール案について事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・スケジュール案について説明

【青木会長】

では追加募集のスケジュールについては、資料記載のとおりとしてよいか。

(よしの声)

採択方針については、当初募集と同様としてよいか。

(よしの声)

では追加募集のスケジュールについては、資料記載のとおりとする。

採択方針については、当初募集と同様とする。

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業について」の「2) 追加募集について」を終了する。

その他、本日の議題について何かあるか。

(発言なし)

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

次回の協議会について説明

【青木会長】

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：6月28日（月） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
（午後6時に旧高士スポーツ広場に集合し、会議開始前に現場視察を実施）
- ・内容：(仮題) 旧高士スポーツ広場の除却について
その他、何かあるか。

【松山委員】

当日、旧高士スポーツ広場をよく知る、例えば、飯田町内会の住民等に参加してもらい、説明を受けることは可能なのか。

【青木会長】

自分も同様に考えていた。

地主、飯田町内会・妙油町内会の関係者や町内会長、また振興協議会の役員、これまで管理していた高士地区体育協会の会長等も含めて、参加してほしいと自分は考えていた。その他にも参加したほうがよいと思う関係者等がいる場合には、参加してほしいと思っている。

【松山委員】

また、当日の様子を地域だよりに掲載できるよう、写真を撮影しておけばよいと思う。

【小林センター長】

今ほどの松山委員の意見について補足である。

事務局では、地域協議会だよりを定期的に発行している。そのたよりの中で、旧高士スポーツ広場の視察について掲載する予定であるため、ご了承願う。

【青木会長】

事務局に確認である。

先ほど発言した、関係する町内会や団体等に向けて、案内を出すことは可能か。

【小林センター長】

今回の視察については、旧高士スポーツ広場を所管しているスポーツ推進課より説明を受ける予定としている。担当課の説明を聞いた後で委員同士の意見交換に入ることと想定していたのだが、視察や意見交換の場に現地をよく知る団体等が入ることもやぶさかではないかと思う。ただ、関係者と思われるすべての人を広く呼ぶということは、本来の筋から外れてくる可能性があるようにも思う。

提案であるが、まずは地域協議会だけで、スポーツ推進課より説明を受けることとしてはどうか。最初から手を伸ばし過ぎるよりは、審議が進んで行く中で広げていくこともよいかと思う。

【青木会長】

直接的な関係者として、町内関係者ではなく、振興協議会の役員や体育協会はどうか。

【上野委員】

旧高士スポーツ広場の除却については、4月に開催された高士地区振興協議会の総会にて、初めて話を聞いた。今後どのようにするのかについては、まだ説明を受けていない。また、今後は高士区地域協議会にも説明がされることになっているかと思う。そのため今回の現地視察については、先ほど小林センター長の補足説明にあったように、スポーツ推進課と地域協議会委員のみでよいかと思っている。

【青木会長】

上野委員の発言にあったように、現地視察はスポーツ推進課と地域協議会委員のみとしてよいか。

(よしの声)

【日向副会長】

- ・閉会の挨拶

【青木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。